

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		発達支援ゆず 王子公園ルーム			公表日		2025 年 3 月 30 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		適切である。	安全確認については都度留意しながら運営していく。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		基準を満たしている。	兄弟児が同室のときには安全面での配慮が要するため、人員が必要となる時がある。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	靴を脱ぐ場所、置く場所などの目印、入室時の消毒用具などを分かりやすく提示している。	入り口までの階段の勾配が急であり、踊り場も無いため、ベビーカーを運んだり、健康や兄弟児への配慮・お声がけが必要である。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		整理整頓、日々の清掃も実施している。またお子さんの安全性を第一に、用具の配置などを考えている。	今後も継続していく。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別療育であるため、机の下や事務スペース、テントの中などを利用している。	今後も継続していく。		
営	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。		○	全職員が目標設定や振り返りに関わる仕組みを設け、改善への主体的な参加を促している。	具体的な方法について、指示を頂ければ取り組みたい。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者が同室の療育実践のため、常に保護者の方からのフィードバックをいただける環境にあり、都度改善につとめている。	今後も継続していく。		

業務改善	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		目標管理シートにより意見集約の機会がある。	今後も継続していく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		第三者による外部評価は実施していない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		定期的な研修等に加え、スーパーバイザーによるスキルアップの機会がある。	今後も継続していく。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムについて作成し、公開している。	今後も継続していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○			今後も継続していく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			今後も継続していく。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		担当ケース記録を供覧することで、方針や計画などについて相互理解を図っている。	今後も継続していく。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化された評価ツールを使用することで、職員間の統一したアセスメントを実施している。	今後も継続していく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		項目および具体的な内容について適切に設定している。	今後も継続していく。

× 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			個別療育のプログラム立案については、担当者が行い、必要に応じて児発管や他のスタッフと相談しながら行っている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		職員間のディスカッションの中で柔軟性のあるプログラム構築を図っている。	今後も継続していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		複数ケースが同室する場合は、小集団として活動に繋がる場合もある。	今後も継続していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			個別療育のため、各担当者が当日の療育プログラムを立案している。必要に応じて児発管や他のスタッフと相談しながら行っている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○			個別療育のため、各担当者が終了後の振り返りを記録し、他のスタッフに共有している。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		適切に実施できている。	今後も継続していく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		国のルールに準拠し、モニタリングを実施し、見直しに役立っている。	今後も継続していく。
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。		○	会議に参加する場合は、児発管が担当している。	今後は児発管または担当者が出席できるように時間調整などを行っていく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		事業所間連携事業で対応している。	今後も継続していく。

関係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		関連機関からの職員の見学や、保護者様を通しての情報共有を行っている。	今後も継続していく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		必要に応じて適宜実施している。	今後も継続していく。
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		○		これまで児発センターとの連携はない。今後必要があれば適宜連携を図っていく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		訪問支援事業を通じた連携はあるが、園との交流などの機会はない。今後交流の機会があれば積極的に参画する。
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		保護者同室での療育が主体のため、保護者との連携や情報共有には一日の長がある。	今後も継続していく。	

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者同室での療育が主体のため、プログラムの目的、家庭での取り組みなどについて積極的に情報提供している。またHPや動画などでも情報提供を実施している。	今後も継続していく。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に実施している。通常の利用時に質問等があった場合、適宜児発管が説明している。	今後も継続していく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		子どもの権利条約を基本とした療育実践を行っている。また保護者やお子さん自身の決定を尊重している。	今後も継続していく。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		計画書を示しながら説明を行っている。	今後も継続していく。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者同室の療育スタイルのため、常に保護者と連携を取ることができている。	今後も継続していく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		ゆずかわ（保護者間の交流ノート）やオンラインでのつながり（保護者掲示板）を実施している。	実際に保護者が集う場（対面）での機会がないため、今後このような場の提供を検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情等があった場合はすみやかに報告を行い、対応する仕組みを構築している。	今後も継続していく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		公式サイト、ブログ、LINE等により適宜情報発信を行っている。	今後も継続していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報保護についての規程を作り、スタッフがいつでも確認することができる仕組みを構築している。	今後も継続していく。

	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			今後も継続していく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		これまで地域住民を招待する機会はなかった。今後地域とのつながりの場を検討していく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		事故防止、緊急時対応、感染症対応のマニュアルは策定し、誰でも確認できるようにしている。	防犯マニュアルの策定は未実施のため、今後策定する。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPを策定し、非常時の対応について備えている。また避難訓練等を適宜実施している。	今後も継続していく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。		○		初回見学時や児童票の項目の中で記録できるようにしていく。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食事やおやつを提供はない。	同室他児が接触するため、情報共有は必要だと思われる。（他児がおやつや飲み物をこぼす場面などを想定）
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		ヒヤリハットが出た場合は、必要に応じてスタッフミーティングを実施し、今後の手立て構築を検討している。	応急処置用品、緊急時用フエヤブザーの準備が必要である。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		保護者が同室のため、原則子どもの安全確保は、事業所・保護者で協力して行っている。	今後も継続していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットが出た場合は報告書を作成し、全スタッフで回覧を行い、再発防止についてディスカッションしている。	今後も継続していく。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止研修を実施している。	今後も継続していく。

	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		保護者同室のため、身体拘束を行う場面はない（必要があれば保護者に対応を依頼する）。	今後も継続していく。
--	----	--	---	--	---	------------